



# 学校だより

7月号

令和5年6月30日

互いに認め合う世界へ

校長 青木 和裕

「小学校の部、最優秀賞は、二つ橋小学校、遠藤永人さんです。」

6月28日(水)、よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト瀬谷区審査会が、瀬谷公会堂で小中合同開催されました。本校代表の6年遠藤さんが、自らの野球の体験を踏まえた、「ジェンダー平等を実現しよう」(SDGsの視点5)という主張を堂々と語りました。

「(前略)私は最初、先輩を見たときに、『女子なのにすごい』と、女の人を少し甘く見るような思いでした。しかし、先輩の姿を間近に見ていると、『女子なのに』という表現が心の引き出しから消えて、自分自身の目指す人へと変わっていきました。

今年のチームにも、女子の後輩がいます。その後輩にも、先輩から教わった様々な野球の知識を、一人の選手として教えています。その背景には、『女子なのに』うまいと言われてほしいわけではなく、何事にも性別は関係ないという社会常識に変えていくという思いがあります。(中略)

私は、人の個性を尊重し、多様な性を認め合えるように、これからも自分にできることをしていきます。皆さん、私とともに、ジェンダー平等を実現していきましょう。」

漫画の世界では、もう50年近くも前に、女性プロ野球選手の活躍が描かれました。子ども心に、「女性なのに、すごい」と思っていました。今、改めて読み返してみると、素晴らしい魔球を投げる投手、一野球選手なのだと思います。身近な先輩の姿から、見方・考え方が変わった遠藤さんのように、ジェンダー平等の考え方が広まること、ジェンダーにもとづく差別や偏見がなくなることを願います。

審査会で最優秀賞に輝き、瀬谷区の代表に選ばれた遠藤さんは、各区の代表児童生徒が集う7月の本選に臨みます。遠藤さんのジェンダー平等への熱い思いが、さらに多くの人に届くことを願っています。